

丹波市

地域おこし

協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

観光を通して地域に誇りや愛着を

# 清水 健矢さん vol.46

経歴：大阪府出身。(株)ソフトバンク退職後、WEB制作と飲食店を経営。丹波市に移住後、交流人口の増加に取り組む。26歳  
任期：令和元年7月～



丹波市に移住して約2半年になる、清水です。丹波市にかかわる人を増やす「交流人口増加」を使命に、日々協力隊の活動に励んでいます。また、丹波市にかかわる人を増やすだけでなく、かかわる人の人生が豊かになるような仕組みづくりを考えています。

たとえば、観光ポータルサイト「Tamba Style」の企画・運営をしています。このサイトではただ単に、店の紹介や観光情報を提供するのではなく、市内に住む人にスポットを当てて、その人に会いに行ってみたくなるようなサイト作りを意識しています。実績として、昨年の11月は閲覧数が1万2千回を超え、丹波市で影響力のある観光情報サイトの1つになっています。

ほかにもマルシェの開催など、地域の魅力を最大限に引き出す地域ブランディングを意識し

た施策を行い、市外の観光客だけではなく市内在住の人にも、地域に誇りや愛着を持ってもらえるように、日々活動しています。協力隊としての任期は残り半年となりましたが、これからも実地に基づいた新しい施策に挑戦したいと思っています。



記事の取材で写真撮影をする清水さん



観光ポータルサイト「Tamba Style」



市長・林時彦の  
時を駆ける



「誠実」な市役所を  
目指して

令和4年が始まりました。皆さんそれぞれの想いを胸に、新しい年を歩んでおられることと思います。

さて、今年の仕事始め式では、私に「帰ってこいよ」と言ってくれていた母が、かつてかけてくれたもう一つの言葉について職員に話をしました。それは、「時彦、いつでもお天道様が見とつてや。真面目に仕事せなあかん。人が見とつたつても、見とつてなかつても、やらんなんことはちやんとやる」という言葉です。何事にも真面目に取り組む母らしいこのメッセージは、今でも私の心に深く刻まれています。

私が建設会社を経営していたこともあり、この言葉を建築で例えるならば、建物の基礎部分になるかと思えます。基礎部分は完成すると、土に隠れてしまい、見えなくなりますが、おろそかにしてしまうと、建物は倒壊してしまうなど、見えないながらも重要

な役割を果たしています。市役所の仕事も同様に、派手なものはありません。粛々と地道にこなすものが多いです。当然、手抜きなども許されません。

会社経営をしていた当時、私はこの言葉を「誠実」という言葉に置き換えて大書し、社として額に入れて掲げていました。誠実という言葉は辞書で引くと、「真心をもって、人や物事に対すること」とあります。

これまで私は「市役所が元気になれば、丹波市が元気になる」と言い続けてきました。そのため今年も、「市役所が誠実な仕事をすれば、市民の皆さんの信頼を勝ち得る」ということを念頭に置き、今まで以上に職員一人ひとりが誠実に「お天道様が見とつてや！」という気持ちで元気に仕事をしてまいります。

丹波市長  
林 時彦



仕事始め式であいさつをする様子